自 己 評 価 票

○ 自己評価は全部で100項目あります。
○ これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
○ 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行う必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
○ 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。

○ 自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
Ⅰ. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
Ⅴ. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

［取り組みの事実］
ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。（実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入）

［取り組んでいきたい項目］
今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

［取り組んでいきたい内容］
「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

［特に力を入れている点・アピールしたい点］（アウトカム項目の後にある欄です）
日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 ＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
家　族 ＝家族に限定しています。
運営者 ＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。
職員＝ 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。
チーム ＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目（№1から№87）とサービスの成果（アウトカム）の項目（№88から№100）の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	グループホーム ハーモニー
（ユニット名）	2F
所在地 （県・市町村名）	静岡県浜松市西区大人見町3028-1
記入者名 （管理者）	坪井　淳
記入日	平成　21年　3月　2日

セリオコーポレーション有限会社　アスク事業部

地域密着型サービス評価の自己評価票

（ ▒ 部分は外部評価との共通評価項目です ）

取り組んでいきたい項目

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営				
1．理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	家庭に近い環境で暮らせるよう入居者が以前から使用していた物品をできる限り使用していただいている。1日でも長く普通の生活が送れるよう支援し、昔からの行事を暦に従って行っている。月一回の外食、ドライブを行っている。	○	月に一回の外食、昔からの行事を取り入れ、家庭に近い環境を作っている。
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	生活リハビリ（食事の配膳、洗濯物を干す、たたむなど）の手伝いをしていただき、残存機能の維持と一日でも長く普通の生活ができるよう日々取り組んでいる。	○	入居者と職員が共に暮らしているような感覚で家庭的な生活が送れるよう入居者の困難な部分をさりげなく支援している。日常生活リズムを大切にして暮らしている。
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にした理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	運営推進会議において事業所内の様子や出来事などを報告し、地域の各会長様からは行事へのお誘いをいただいている。月一回の外食、ドライブを通して地域の方との交流機会を得ており理解もすすんでいる。家族には毎月行事予定表を配布し自由に行事にも参加できるようにしている。	○	家族に予定表を配布し自由に参加できるようにしている。地域の行事や祭りに参加したり、地域の方を家族交流会に招待し交流を図っている。
2．地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	運営推進会議を通じ、取り組んでいる交流の中でボランティアとして来所していただいたり新たにボランティアをしたいと希望される方がいらっしゃったりと少しずつ輪が広がってきている。		
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域で活動している方達の発表会や花見に誘って頂いたり地域のお祭りの時には太鼓と屋台を事業所まで引いてきて下さり入居者が見学をさせていただき交流を深めている。また家族交流会を行い、地域の方家族などを招き交流を図ったり逆に地域のいちご農家に地域の方、家族等で出かけ交流を図っている。	○	さらに地域で活動している方とコンタクトがとれるよう努めていきたい。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地震等の災害発生時法人内にリハビリ公園があり、非常食、汲み取り式トイレを準備している。非常時には地域の方にも開放を考えている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の助言を基に少しでも入居者、家族のためになるよう改善し安心して任せられる事業所になるよう努めている。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月毎に入居者の活動状況や取り組んでいること日々の活動の様子を自治会長、婦人会長、民生委員、入居者家族代表、市役所職員等へ報告し助言をいただいている。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	家族交流会にご招待し、交流による和やかな部分を見ていただき市職員より、職員が積極的に声かけをしていた。入居者の様子や動きを把握していた。普段の事業所の様子が目に浮かぶようだった。職員同士のコミュニケーションやチームワークの良さに感心したとの意見をいただいた。今後も交流会等へのお誘いを行っていく。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在のところ成年後見制度を利用している方はいない。認知症研修に参加したり話し合いを行っているが内容的には不十分であるため必要な人が出た時すぐ活用できるようにしていきたい。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	認知症研修に参加したり、勉強会や話し合いを通じ職員間情報を共有し対応するようにしている。特に言葉による虐待がないよう気をつけて対応している。職員一人で長時間対応しないよう配慮している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
４．理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	見学時、契約時、面接等再度説明を行い口頭及び文書で説明を行い、理解されていることを確認している。その際の不安や疑問にも対応できるようにしている。		
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	訴えがあった時、職員同士で情報を共有しカンファレンスを行い改善したり家族への報告又は入居者が直接家族に電話をしていただき、安心して生活が送れるよう支援している。苦情があった時には苦情相談処理記録票に記入し改善策を上げ繰り返さないよう注意している。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月初めに入居者状況報告書を作成し、食事、睡眠、排泄、入浴、日常生活、服薬、気づいた事をお小遣い報告と月の行事予定表と共に報告している。急変時、ヒヤリハットがあった時には状況に応じ早めの対応をしている。異動、入社については一筆書きをしている。	○	小遣いをお預かりする時には領収証を渡している。入居者状況報告書に記入したこと以外にも暮らしぶりや気づいたことの報告をしている。家族からの相談も受けている。
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族からの意見、不満、苦情は職員で情報を共有し即時に対応するようにしている。苦情相談処理記録票に記入し改善策を上げ繰り返さないよう注意している。第三者への苦情報告ができることを入居時伝えている。	○	契約時には、苦情の申し立てについての説明。よりよいケアをする為にも気をつける事は遠慮なく伝えてほしいと説明している。
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員の勉強会やカンファレンスを行い、業務の改善や取り組み入居者の問題解決方法を職員で話し合い反映させている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	入居者、家族の相談があった時や入居者の緊急時、職員の配置を調整している。職員の体調不良等が出た場合、随時人員配置を変更し対応している。		
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員それぞれのユニットの担当は決まっているが、夜勤等を通じ他の階の入居者と関わり職員が全体を把握できるよう情報共有している。異動、離職の場合は必ず入居者一人ひとりにあいさつ回りをしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
５．人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	新人研修、中堅研修、フォローアップ研修等計画的に研修機会を得ている。事業所内では教育マニュアルに添って職員の教育をしている。希望する外部への研修参加をすすめている。月１回事業所内で勉強会を行っている。	○	法人内で事業所毎に研究課題を決め、研究内容を法人内職員に向け発表し互いに勉強し合い介護の向上に取り組んでいる。
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と研修を通じ交流機会を得ている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	法人内に悩み事を相談できるようにスーパーバイザー組織がある。職員の納涼祭や忘年会、歓送迎会等の催しを行っている。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	各自、自分の意識を人事考課制度により確認できるように項目に添って自己採点を行い、自分にとって足りない部分に気づき今後の目標を見出せるような方法を取り入れている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
１．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	利用前、家族より本人の生活状況、身体状況を聞き見学時、本人をご案内し、質問や相談事を聞いたりしている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	入居時にバックグラウンドアセスメントを行い、今までの生活状況を家族に詳しく書いていただき、本人の情報を知った上で不安に思っていること求めていることを聞き、課題を上げできる限り受け止められるよう努力している。	○	家族から質問されたことや本人の情報等を情報用紙に記入している。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時、方針や生活の仕方等を説明し、家族と本人で事業所内の見学をしていただき様子がつかめるようすすめている。適応と思われない方には他のサービスを説明しその人の希望に合わせ、他事業所や施設内相談員に依頼している。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	最初からすべてを受け入れることは難しいと思っているが、家族と本人が一緒に見学し、入居者の方との交流や生活の場の雰囲気を体感していただき納得して入居できるようすすめている。自宅にある馴染みの家具や物品があればできるだけ持ち込んでいただきあんしんできる環境にしていただけるよう家族に依頼している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は入居者からの意見を基に楽しみを見つけ出していくように心がけている。困っていることがあれば相談にのり、一緒に解決策を見出せるよう支援している。生活上の食事の配膳片付け、清掃、洗濯物、食事作り等を入居者と一緒に行い負担になりすぎることなく少しでも出来ることが増えるよう支援している。		
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族を家族交流会に招待し、職員、家族本人との交流が図れるように取り組んでいる。又面会時には入居者の生活の様子をお伝えしており、家族からも本人が自宅にいた時の様子や外泊した時の様子を聞いたり家族の考えや相談事を伺ったりしている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	関係が薄くなってしまわないよう面会、外出、外泊の重要性を伝えている。特に問題行動がある場合、状況や対応を家族に説明し家族の協力も得ながら本人が安心できるように支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	家族の要望により面会制限がない限り、面会、外出、外泊等自由に行える。馴染みの方に会いに行ったり、ドライブや外食、墓参り、美容院等家族と出かけられている。全て当日言われても対応できるようになっている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	お互いが関わりやすいよう職員が間に入り共通の話題ができ安心できるよう支援している。互いに了解があれば居室へ遊びに行ったり自由に交流されている。静かに居室で過ごしたい時間等は本人の希望に添うように努めている。気持ちよく生活できるよう席の配慮をしている。	○	入居者同士好きな所で会話されたり、車イスの方を別の入居者が押してくれたりしている。孤立しそうな方には本人の希望を聞きながら職員がフォローし無理のない交流をすすめている。

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	他施設へ入所となった方も時々元入居者の様子を他施設から伺っている。家族からも現在の様子を知らせてくださる方もいる。状態が良くなり自宅退去された方も時々様子を伺っている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1．一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人からの意向を聞いた上でサービス提供している。日常生活の中で嫌な事には強制せず、あくまで本人本位。好きなこと、やってみたい、参加してみたいことの把握に努めている。	○	職員と入居者が一緒にできる習い事、生活リハビリを増やしていきたい。
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時、バックグラウンドアセスメントを家族に記入していただき生活環境や馴染みの暮らし方の把握に努めている。本人からも入居時、生活環境がこれでよいのか確認し、入居後も随時確認して暮らしやすい環境となるよう努めている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	入居時より生活状況をカルテに記入し、アセスメントを行い職員の意見を統合しカンファレンスを行って把握できるようにしている。一日の流れはあるものの個々にあわせた流れで過ごしていただいている。		
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	家族の意向、本人の意向を聞き、アセスメントを行い、関係する全ての意見をカンファレンスにて話し合い介護計画を作成している。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画見直しは3か月に1回行っている。計画に対応できない変化が生じた時は家族に状況報告をし、意見をいただき新たな介護計画を作成している。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日本人のカルテに一日の様子や気づきを記入し、重要なことは看護介護日誌に記入を行い職員全員が情報共有できるようにしている。月1回以上介護経過を記録し、これらの情報を基に介護計画にも生かしている。		
３．多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	理美容、売店、診療所等要望に応じ連携をとっている。口腔のことで気になることがあれば、法人内の歯科衛生士と連携をとり支援している。		
４．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域のボランティアの方が協力して下さり普段と違った体験をさせてもらっている。防災訓練時消防との連携を図っている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	家庭の事情や著しい重度化により事業所の利用が困難な状態にある時、ケアマネージャーやサービス事業者と連携をとり本人に合ったサービスが受けられるよう支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターとの連携はあまりとれていない。今後活かしていきたい。		
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人、家族の望むかかりつけ医に受診できるようにしている。専門外では紹介状を作成し、受診できるよう支援している。法人内の診療所も受診ができる。特変が生じた場合、家族に状態を伝えかかりつけ医に家族とともに受診していただいている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	法人内の診療所医師にお願いし、指示、助言してもらっている。状況に応じ専門医を紹介し家族とともに受診してもらっている。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	毎日のバイタルチェックを行っている。日々カルテを記入し、状態の変化の有無を確認できるようにしている。また食事量、水分量の観察。入浴時皮膚の状態を観察している。	○	やかん、特変時には法人内の看護師に連絡をとり対応できる体制をとっている。
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	相談員と連携し情報交換している。入院時サマリーを作成し送っている。本人が安心できるよう様子伺いも含めて職員がお見舞いに行っている。入居していた居室は最大3か月そのまま維持しておくことができ、家族への安心感も与えている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	現在終末期の方の対応は行えない為、完全に重度化する前にかかりつけ医、家族と話し合いを持ち今後の方向性を一緒に考えていくようにしている。		
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	重度の方には目配りを多くし変化をしっかりとカルテに記入し、かかりつけ医、家族に報告している。情報は職員全員が共有し統一したケアができるようにしている。		
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている	生活の様子や注意点等サマリーに記載し、居所が変わっても同じようなケアが継続できるよう情報交換に努めている。馴染みの物品はそのまま別の居所でも使ってもらえるよう声をかけている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1．その人らしい暮らしの支援				
（1）一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	言葉かけには特に注意を払い、人生の先輩であることを忘れず対応している。プライバシーに関わる部分は他入居者に伝えないよう徹底している。	○	個人情報保護の勉強会を行っている。
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている	普段の会話の中から自然に希望が聞き出せるように働きかけている。理解力も入居者個々に違う為、その人にあった説明を行いできる限り自分で納得して行動を起こせるよう職員が支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	大まかなスケジュールしか用意されておらず自己決定を大切にしている。		
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている	入居時、馴染みの美容院を利用するか、法人内の美容院を利用するか本人と家族に確認をしている。馴染みの美容院の場合は家族にお願いしている。法人内美容院は職員が送迎し、本人の希望によりカット、毛染め、パーマ、ひげそり等に対応していただいている。		
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	毎日の配膳や準備、片付けを職員、入居者と一緒になって行っている。食事が食べにくい方には一口サイズで食べられるよう職員が支援している。食事作りの日には入居者が楽しめ、手伝い易く食べたい物を考慮し企画を立てている。職員と入居者で希望される方と一緒に食事を作り、一緒に食事をしている。後で感想を聞いている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	飲み物はコーヒー、レモンティ、お茶等変化を持たせて楽しんでいただいている。希望する飲み物は購入してもらい好きな時に飲んでもらっている。むぎ茶希望者には好きな時に飲めるよう工夫している。おやつは普段の物以外にも希望者には自分で選んで買ってもらっている。たばこは職員が預かり希望時に吸えるようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
56	○気持よい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	おむつ類は個々の状態に合わせ出来るだけ使用量を減らしている。排泄パターン把握のため排泄チェック表を作成し、排泄解除の必要な方は本人の時間に合わせて誘導を行い支援している。夜間帯歩行が不安な方にはポータブルトイレを設置し支援している。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	曜日感覚維持のため、一応男女の入浴日を作っているが希望者全員入っていただいている。月曜から土曜利用可能で入りたい時間帯を聞き、ゆっくり入っていただけるようタイミングを見て声かけし入浴していただいている。職員は見守り、一部介助で声かけしながら入浴を楽しめるよう支援している。本人の使いたいシャンプーや石けんがあれば使用して		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々の状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	一人ひとりに合わせ休息したい時には、訪室を控えゆっくり過ごして頂いている。夜間は定時の巡視を行い特変がないかの確認と安眠できているかの確認を行っている。入居者には馴染みの寝具をできるだけ使用していただき安心できるように努めている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	個々の入居者の出来ることを把握し、負担になりすぎることなくやれる役割を職員と一緒に行っている。毎日の散歩や行事、外リハ等で気分転換を行っている。入居者同士の交流の中からゲームをやられたり趣味的活動を行っている方への支援をしている。		
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物や外リハ時には支払いが出来る方のみ支払ってもらっている。　小遣いは家族より預かり、金庫に保管している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	晴れていれば希望にそって散歩に出かけている。リハビリ公園には平行棒、階段、花壇、畑、東屋等があり、各自思い思いに過ごされている。家族と一緒にいつでも外出できるようにしている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	外リハに家族の同行可能な事を伝えており月１，２回外リハで普段いけない所へ出掛けている。食事作りの買い出しで買い物希望者とスーパーに出掛ける機会を作っている。家族交流会ではイチゴ狩りに出かけ家族との外出機会を作っている。外リハではいろいろな食事処やいろいろな体験施設へ出掛けている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族の了解のもと、自宅に電話をかけられるようにしている。家族の了解のもと、手紙のやり取りができるよう支援している。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	家族より面会拒否の方がいない限り誰でも気軽に面会できるようにしている。居室内やホール等、家族、本人が安心できる所でゆっくりしていただけうようお茶と椅子の用意をしている。		
（4）安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する委員会を設置している。勉強会を行い身体拘束に関する資料を作り、職員に配布している。身体拘束に関するマニュアルがある。		
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	公道が玄関前にあり、ダンプカーの往来もある為、生命の安全を優先し施錠している。夜間自室窓から出て戻れなくなってしまう方には事故の危険もあるため家族了承のもと、ベランダ窓の施錠を行っている。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	常に入居者の位置を確認しながら、危険な状態がないか見守っている。夜間の巡視は入居前、入居時家族、本人に説明し特変がないか確認している。日中居室に入る時にはノックと職員であることを知らせ本人の承諾のもと入っている。必要以上に入らないように心がけている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	洗剤類は目に触れにくい所に保管し、薬や刃物、ライターは職員室で管理している。特に危険な物は鍵のかかる倉庫で管理している。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	勉強会を行い一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる。ヒヤリハットから事故の発生原因、経過を確認し、職員の知識として学び再発防止に取り組んでいる。行方不明に対応するため最近の写真を用意している。防災訓練を定期的に行い職員の意識を高めている。服薬時は必ず名前を呼ぶようにしている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルがあり事業所内の勉強会や法人内の研修等で急変時対応の訓練を行っている。無断外出者には緊急連絡網にて職員全員に連絡をとり法人内にも連絡し対応している。夜間急変時には隣接の施設の看護師に連絡し対応してもらうことができる。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	火災、地震等の災害訓練は入居者全員を対象に2か月に1回昼間、夜間を想定した避難訓練を行っている。		
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にした対応策を話し合っている	入居時、家族に転倒によるリスク、急変することがあることを説明し、理解していただいている。状態が変わってきている時にはまめに家族と連絡を取り合い、急な精神的負担を与えないよう配慮している。		
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	毎朝バイタルチェックを行い特変がないか見守っている。食事量、水分量、行動の変化等も確認し異変があれば看護師に報告し、看護介護日誌、カルテに記入している。看護介護日誌、申し送りにて職員の情報共有を図っている。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	事業所で使用している薬を職員が理解した上で服薬管理ができるよう努めている。薬は完全に内服したことを確認できるまでその場を離れず観察している。誤薬防止のため内服薬は職員管理で行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘予防のため散歩や体操を行っている。かなりの便秘の方には緩下剤を使用しているが、薬に頼らず牛乳を取り入れ排便を促すよう支援している入居者もいる。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	自力で磨いていただいた後、職員による仕上げ磨き、確認を行っている。定期的に法人内の歯科衛生士が口腔内の確認を行い、入居者への指導を行っている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の下で献立、調理を行い、毎食食事量を確認し記入している。糖尿病の方にはカロリー制限に従い量を調整している。食べにくい方には一口大にカットしたり食事量を減らさない工夫をしている。水分量が少ない方は飲み物を変更したり工夫している。		
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、ＭＲＳＡ、ノロウイルス等）	感染予防マニュアルを使用し勉強会を行っている。常に確認できるよう手洗い場に対応策の紙を貼っている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食事作りでは前日に食品を購入し、当日使い切っている。生ものはなるべく少なくし、生で使用する物には手袋を着用し職員が盛り付けている。食器類は毎回乾燥機にかけている。週1回は必ず食器類の消毒をしている。生ゴミは毎食後すぐに片付けている。冷蔵庫内のものは賞味期限直前には処分している。		
２．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	建物の近くに家族の車を駐車できるスペースがある。スロープがついており安全に出入りができるようになっている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	家庭的雰囲気の季節の飾りを廊下や居間等に配置している。光が強すぎる時はレースのカーテンを引き調整している。玄関入ってすぐの所に靴を脱ぐ時楽なように畳の縁台があり入居者同士のコミュニケーションの場となっている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビ前にテーブル、ソファを配置している。畳スペースも自由に使っていただいている。食堂は食事の時は混乱しないよう仲の良い方同士を基本に席を決めている。他の時間帯は好きな場所に行き会話されたり思い思いに過ごされている。		

項　目		取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組んでいきたい内容 （すでに取り組んでいることも含む）
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	今まで馴染んできた家具や寝具、写真等を本人、家族で好きなように配置していただいている。今まで取り組んできた趣味的な物や工作物等も自由に飾っていただき、自分の部屋であり居心地がいいと感じられるよう努めている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のよどみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	暑すぎず、寒すぎない冷暖房に気をつけている。居室内と共用部分の温度差が激しくならないよう注意している。毎月の散歩時必ず窓を開け新鮮な空気を入れている。空気がよどみやすい場所は常に換気扇を回している。必要な場所には消臭剤、芳香剤を使用し快適に過ごせるよう工夫している。	○	節電にも気をつけながら個々の快適な温度を探していきたい。
（2）本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	靴を履き替える場所は畳の縁台になっている。廊下、トイレには手すりを設置。浴槽には滑り止めマットを敷いている。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	各部屋を識別しやすいように入居者や家族、職員が工夫し、ネームプレートや飾りをつけることによって混乱せず居室に戻れるように工夫している。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	外周りには畑と洗濯干し場があり、入居者と一緒に取り組んでいる。隣接地に犬が飼われている為、好きな方は触れ合っている。		

Ｖ．サービスの成果に関する項目

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる		①ほぼ全ての利用者の
		○	②利用者の2/3くらいの
			③利用者の1/3くらいの
			④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある		①毎日ある
		○	②数日に1回程度ある
			③たまにある
			④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている		①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2/3くらいが
		○	③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
94	利用者は、その時々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている		①ほぼ全ての家族と
		○	②家族の2/3くらいと
			③家族の1/3くらいと
			④ほとんどできていない

項　目		最も近い選択肢の左欄に○をつけてください。	
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
		○	②数日に1回程度
			③たまに
			④ほとんどない
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
		○	②少しずつ増えている
			③あまり増えていない
			④全くいない
98	職員は、活き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②職員の2/3くらいが
			③職員の1/3くらいが
			④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての利用者が
		○	②利用者の2/3くらいが
			③利用者の1/3くらいが
			④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		①ほぼ全ての家族等が
		○	②家族等の2/3くらいが
			③家族等の1/3くらいが
			④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】
（この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。）

日々の散歩により風邪等ひく方が少なく維持している。今後も続けていきたい。社会との繋がりを大切にするため外リハを月１回以上取り入れている。